

【第七八回研究例会】

中近東・韓国・日本における子どもに手渡す物語

近代韓国児童文学の開拓者・方定煥と

現代韓国絵本の開拓者・柳在守の共通点

― 韓国の児童図書出版における個の尊厳と

アイデンティティ ―

大竹 聖美

一 はじめに

二〇一〇～二〇二〇年代における韓国の児童図書出版の隆盛と国際的な評価は、二〇二〇年にアストリッド・リンドグリーン記念文学賞を受賞した絵本作家のベク・ヒナ⁽¹⁾、二〇一六年国際アンデルセン賞画家賞にノミネートされ、韓国人初の最終候補者⁽²⁾に選ばれたスージー・リー⁽³⁾などの活躍によって日本でも広く知



図1 アストリッド・リンドグリーン記念文学賞受賞(2020年):ベク・ヒナ『天女銭湯』ブロンズ新社、2016年



図2 国際アンデルセン賞画家賞最終候補者に韓国人として初めて選ばれた:スージー・リー『なみ』講談社、2009年

韓国の児童図書出版に対する世界的な評価は、二〇〇〇年代に入ってから、絵本の分野において、まずはデジタル面、あるいはアートブックとしての美術的な要素から頭角を現すようになった(図1、図2参照)。

今や国際的に高く評価されている韓国の絵本であるが、そもそも現代的な絵本が初めて出版されたのは、民主化宣言が行われた一九八七年の翌年、ソウルオリンピックが開催された一九八八年のことである。韓国の絵本の歩みは激動の韓国現代史における民主主義の発展の歩みと重なっている。

民族が南北に分断され、軍事的緊張状態があり、若者には数年の兵役義務がある韓国。日本では、戦後の平和運動と家庭文庫の時代から半世紀近い歴史を経てようやく二〇〇〇年に国立子ども図書館を創設したが、韓国では日本のすぐ後を追うように二〇〇六年に国立オリニ青少年図書館を開設させた。オリニ

られるようになった。

ベク・ヒナもスージー・リーも一九七〇年代生まれの女性で、両者ともに韓国の大学を卒業した後、英米の大学でアートを学んだ新しい世代であり、民主化以降の現代韓国社会の急速な発展を背景に輩出された新しいグローバル人材である。

とは純粹韓国語で子どものことである。民主化宣言からわずか二十年で、世界的にもそう多くはない子どもの本専門図書館をオープンさせたのである。この速さと原動力はどこにあるのであろうか。歴史をさかのぼって考察したい。

二 日本統治下の民族意識と児童雑誌創刊ならびに初めて の『世界名作童話集』

韓国児童文学、あるいは朝鮮近代児童文化の歴史を振り返ると、その起点には方定煥（パン・ジョンファン／방정환、一八九九―一九三一年）という人物が存在する。韓国のアンデルセン、韓国の子どもの父など多くの愛称で呼ばれる韓国児童文学の創始者である。

方定煥は、朝鮮半島が前近代的な東洋の秩序から、近代の世界地図へと組み込まれていく歴史的な大転換期を生きた人物である。十九世紀末、朝鮮王朝末期の大韓帝国時代に王宮前の大きな商家に生まれ、幼いころは富裕商人の長男として大切に育てられたが、王朝の没落とともに極貧を味わい少年期には大変な苦学をしている。

方定煥が育った一九〇〇年代朝鮮は、旧態依然とした儒教的な価値観で子どもの人格を抑圧するような風習が色濃かったのだが、方定煥はそうした時代の特性の中、父親の代から熱心に信奉する民族宗教団体（東学／天道教）が従来の体制に反発する中で興した人権思想を背景に、古い価値観から子どもたちを

解放しその尊厳を守ろうとする運動に目覚めていった。⁽³⁾

（一）近代朝鮮に生まれた児童人権意識

方定煥は、その当時、新しい概念として子どもの人格を尊重した「オリニ（幼き人・小さい人）」という語彙を確立させた。子どもに対する「オリニ」という呼称は、方定煥が使用する以前は一般的に使われない表現だった。それまでの朝鮮社会では、お年寄りニヌルグニ、若者ニチョルムニのように、大人たちへの敬意を示す呼称はあっても、子どもニオリニというような幼いこと自体を尊重する呼称もなく、そうした意識がなかった。子どもというのは、取るに足らないもので、文化的な扱いを受ける価値のない存在だったのである。つまり、児童の人権に対する語彙もなく、意識もなかったのである。

そこに、「オリニ」という語彙を普及させ、幼い人々の尊厳や固有の価値（いわゆる童心主義）を見出し、新しい文化運動として朝鮮社会で初めて主張したのが方定煥であった。

国民の祝日に指定されている五月五日の「子どもの日（オリニナル）」を創設したのも方定煥であり、そうした業績から、ソウル市内のオリニ（子ども）大公園には方定煥の大きな銅像が立てられている（図3）。また、子ども向けの偉人伝記全集などでは現在も欠かせない存在で、それだけ多くの国民に敬愛される人物であり、業績を残した。⁽⁴⁾



図3 ソウル・オリニ大公園にある
小波(ソバ)・方定煥像
(2017年3月大竹撮影)

(二) 民族主義と独立運動

ところで、この方定煥と韓国の児童文学・文化を知るうえで重要なことは、方定煥の民族主義、独立運動家としての側面である。方定煥には、韓国の近代史における最重要事項の一つである一九一九年三・一独立運動に参加した志士としての側面がある。

実は、方定煥は、三・一独立運動を主導した民族代表のなかでも特に重要な人物であった天道教教主孫秉熙(ソン・ビョンヒ)の娘婿として孫秉熙と一つ屋根の下で暮らし、天道教内においても重要なポジションにあった。このことは、韓国児童文学の出発点の思想的背景を理解し、現代にも続く韓国児童文学の性格を解明する上で大変重要である。⁵⁾

方定煥は、一九三一年に齡三二歳で人々に惜しまれながら夭折したが、短期間で成し遂げた業績は大きい。韓国初の本格的児童文芸誌『オリニ』の創刊(一九二三年三月、開闢社)をはじめ、『開闢』(一九二〇年六月、開闢社)、『新女性』(一九二三

年一〇月、開闢社)などの近代朝鮮を代表する重要な雑誌に寄稿しその編集に関わった。これらの雑誌はすべて開闢社から刊行されており、開闢社は天道教の運営である。⁶⁾

また、方定煥は一九二〇年〜二三年にかけて東京に滞在しているが、これは、表向きは開闢社東京特派員としての渡日で、実際に『開闢』には方定煥が東京で執筆した記事が掲載されている。しかし、雑誌に取材記事を送りながらも、その裏では天道教青年会東京支会を設立し、初代会長に就任し、在京の朝鮮人留学生たちを組織することに奔走しているのである。この事實は、一九一九年の三・一独立運動以降、朝鮮総督府が文化統治に切り替えたことよって爆発的に増えた東京の朝鮮人留学生をターゲットに、新文化の吸収と同時に朝鮮人としての精神文化を見失わずに組織化を進めようとした天道教の民族主義的で独立運動的な目的があつたことを示しているのではないだろうか。

一般的に、この一九二〇年〜二三年における方定煥の東京滞在を、単に、「東京留学」と呼び、一九二三年に創刊された朝鮮初の児童文芸誌『オリニ』の刊行について、これは方定煥の留学の結果であつて、当時の日本で流行していた『赤い鳥』などの児童雑誌や童心主義的な童話・童謡ブームを移植したものであるかのように見られている。確かに、現在でも韓国では日本語と同じ「童話」「童謡」「童心」という用語が文芸上の重要なタームとして生きており、そうした大正期の日本で流行した近代の文芸用語は方定煥の時代から朝鮮でも使用され始めたものである。

こうした現象は、韓国児童文学の生成過程が日本の児童文学史と密接な関係があることを示しているのであるが、しかし、上述した通り、方定煥の渡日は単なる留学ではなかったし、単なる新文化の受容や日本を通じた近代文化の輸入ということがその本質ではなかった。⁽⁷⁾

(三) 『世界名作童話集』と児童文芸誌の創刊

とはいえ、一九二〇年～二三年の渡日期間に方定煥が行った仕事のなかでも一般的に良く知られていて、特に韓国児童文学史において特筆されているのは『世界名作童話集』の刊行と、上述した初の本格的児童文芸誌『オリニ』の刊行である。

方定煥は一九二〇年の秋に渡日した後、雑誌『開闢』に記事を書き、天道教青年会東京支会を設立した。その後一九二二年四月に新設されたばかりの東洋大学専門部文化学科に二期生として入学する。東洋大学には、「朝鮮人を想ふ」(一九一九年五月)『読売新聞』で連載され、朝鮮では一九二〇年四月二日の『東亜日報』に朝鮮語翻訳が掲載された(有名な朝鮮文化の理解者である柳宗悦など著名な文化人教授が多く在籍していたのだから、方定煥は東洋大学で新文化・新思潮に大いに触れたのだと推測されてしかるべきである。また、当時人気だった文化学科には文芸研究会があり、その講師のほとんどが児童文学関係者だった。⁽⁸⁾

こうして方定煥は、朝鮮人留学生が爆発的に増えたと言われている一九二一年に東洋大学に入学し、その年の年末に、世界

名作童話の翻案集である『世界名作童話集 愛の贈り物(사랑의 선물)⁽⁹⁾』を東京で執筆して前書きに次のように記している。

虐待され、踏みにじられ、冷たく、暗い中で

私たちのように、また、育ちゆく、かわいそうな幼い霊たちのために、

深く、同情し大切に、愛の初めての贈り物として、

私は、この本を編みました。

辛酉年末に、日本東京白山下にて ソバ(小波) (大竹訳)

「日本東京白山下にて」と明記されている。

本書は、一九二二年七月に京城・開闢社から全文ハンゲルで刊行され、一九二〇年代には十版を重ねるベストセラーとなり、多くの人に読まれた。

また、一九二四年の『オリニ』四月号には、図4のような広告が掲載された。内容は次の通りである。



圖4 『世界名作童話集 愛の贈り物』広告文『オリニ』1924年4月号

このかわいらしい本が有名な『愛の贈り物』です
方定煥氏がオリニたちのために翻訳された

＝世界の有名なおはなしの本です＝

この有名な本をまだ読んでいないのなら、とても恥ずかしいことです。

この本の中には、世界に有名なお話しだけが十も載せられた限りなく面白い本です。おじいさん、おばあさん、お姉さん、お兄さん、誰でも見れば面白がる本です。値段は五十銭、送料は十三銭です。ぜひ買ってみてください。

京城慶雲洞

開闢社出版部 振京八一〇六番

(大竹沢)

方定煥によって朝鮮語に翻案された世界名作とは、イタリア(アミーチス「クオレ」、フランス(ペロー「シンデレラ」、イギリス(オスカー・ワイルド「幸せの王子」、ドイツ(グリム「いばら姫」、デンマーク(アンデルセン「薔薇の花の精」、イタリア(シシリーの昔話「魔王ア、」)などで、当時隆盛していた日本の児童出版物、つまり、児童雑誌やお伽噺集からの翻案である。

このように、方定煥が東京滞在の成果として朝鮮の子どもたちに最初にプレゼントしたのが、この『愛の贈り物』すなわち、『世界名作童話集』だったのである。本書は、夭逝した方定煥が残した唯一の童話集であったことや、当時ベストセラーとなり

多くの人に読まれたこともあって、現在も韓国児童文学の出発点として児童文学史に刻まれる世界名作童話の翻案集である。

(四) 朝鮮古來童話募集

しかしながら、筆者が関心を持っているのはこの『世界名作童話集』ではない。この童話集が刊行された一九二二年七月に、『開闢』誌において、方定煥は大々的に「朝鮮古來童話募集」の広告(図5)を出したことに注目している。方定煥の本質は、むしろこの「朝鮮古來童話募集」事業の方に見出せると考える。

朝鮮古來童話募集

朝鮮古來童話募集の趣意
朝鮮古來童話募集の賞
朝鮮古來童話募集の募集方法

小波 方定煥氏考選

規定

一等 金貳拾圓 (全)

二等 金貳拾圓 (全)

三等 金拾圓 (全)

募集

集

別紙

表紙

募集方法

図5 「朝鮮古來童話募集」『開闢』28号、1922年7月

方定煥は、日本で目にした世界名作童話集や美しい童話・童謡が満載の児童文芸雑誌に触発されつつも、朝鮮の民族精神を見失うことはなかった。方定煥は、抑圧された民族性、人間の解放、つまり天道教の教理をよく生きた人物だったのでないだろうか。

一九二二年七月に『開闢』誌に掲載された「朝鮮古来童話募集」の広告にはこう書かれている。

どの民族であつても、その民族性と民族生活を根底にして、そこから生まれた伝説と民謡と童話と童謡がある。この伝説童話、童謡はその民族性と民族の生活の根っこであつて、そこから流れ出て、またそれがその民族根性を強くし、新しいものを与える。だからこのあいだには無限に循環する相生の關係がある。かの有名なグリム兄弟の童話はどれほど独逸国民に強勇性を育て、英国の国民童話と言つてもよい有名なあの悪魔退治の三大童話はどれほどの民族に忍耐性と保守性を育てたかを考えてみると、童話、伝説の力の偉大さを再度感じるのだ。(大竹訳) (広告「朝鮮古来童話募集」『開闢』二八号、一九二二年七月)

方定煥が重要視し、繰り返し述べているのは、「民族性」と「民族の生活」である。伝説、童話、童謡は、民族性と民族生活の根っこであるとして、その力の偉大さを強調している。そして、次のように続けている。

しかしながら、兄弟よ、我々は今、何かそのようなものを持つているだろうか。我々はともかく我々の前に新しく生長する新しい民族に、育ててやるべき何かを我々が持つているのだろうか。ほかの何ものとも比べる事ができない高尚な朝鮮古来の童話と童謡はこれを留意する者がいないから、いつのまにか分らないうちに埋もれてしまい、京郷の新しい民族は歌うときは「モシモシカメヨ」だし、あるいは浦島太郎、桃太郎だ。ああ兄弟よ。このことをこのままにしておけば我々の明日はどうなることだろう。(大竹訳) (同上)

ここで「童話」と述べられているのは、昔話のことである。当時、日本では高木敏雄が活躍しており、『童話の研究』(一九一六年)で昔話研究が発表されている。方定煥も一九二三年に「新しく開拓される『童話』に関して」という論考を『開闢』(一九二三年一月号)に発表しており、これは朝鮮初の童話論であるといわれているのであるが、その中には明らかに高木の童話論(昔話論)から引いた記述が含まれている¹⁵⁾。

方定煥は一九二二年の「朝鮮古来童話募集」では、「童話」の用語を高木敏雄に倣つて昔話を指して使用し、さらに「古来童話」と表現しながら昔話を論じているのであるが、一九二三年に発表した「新しく開拓される『童話』に関して」では、小川未明を引き合いに出しながら「童話芸術」を論じており、「童話」の指す範囲を広げた。つまり、高木による昔話としての「童話」

から、小川未明の童心芸術としての「童話」にシフトしている。「新しく開拓される『童話』に關して」は朝鮮初の童話芸術論と見なされ、現在もなお韓国で盛んな童話・童詩芸術論の出発点となった論考といえる。

しかしながら、韓国では、現在もなお「伝来童話」という表現で昔話と呼ぶ習慣が残っており、現代の作家が書く童心芸術としての童話は「創作童話」と明示して区別する場合が多い。いずれにしても、韓国では、近代において方定煥が昔話のことを「古来童話」と呼び、現代においても「伝来童話」と呼ばれているように、昔話は童話の起源であり、アイデンティティであるともなされ、大切にされているといえる。韓国児童文学における童話の正統性というものは、こうした歴史的経緯から、民族性が發揮され、民族生活の根っこにつながっているかが問われているのではないか。

いずれにしても方定煥は、日本の統治が始まって十年が経過した一九二〇年代において、朝鮮の子どもたちが、朝鮮の昔話ではなく、浦島太郎や桃太郎に親しんでいる状況に、「我々の明日はどうなることだろう」と危機感を抱いた。そこで、方定煥が始めたのが、「朝鮮古来童話募集」の「大仕事」だったのである。広告文の最後は、次のように締めくくっている。

このことを切実に感じるので、我々は微力ではあるが民族思想の源泉である童話文学の復興のために各地にながらく

埋もれている朝鮮古来の童話の掘り起こしに着手して、大仕事を実現するために地方の兄弟の力を借りるために懸賞募集という形式を借りてこれを広く告げ志のある兄弟は他の類の懸賞と同視しないでこの価値のある仕事に力を貸してほしい。(大竹訳) (広告「朝鮮古来童話募集」『開關』二八号、一九二二年七月)

「民族思想の源泉」の復興、まさにこれが、現在まで続く韓国児童文学・児童図書出版の原点であり、近代朝鮮児童文化の本質である。

三 現代韓国児童図書出版の原点

さて、次に、韓国児童文学の出発点であった近代の精神が、いかに現在においても継承されているかというところを見てみたい。

本稿第一節はじめて触れたとおり、現代的な児童図書出版物としての条件ともいえる、単行本の創作絵本が韓国社会に初めて登場したのは一九八八年になってからのことである。それまでは、子どもたちが書店で絵本を自由に手に取って一冊一冊選んで購入する、いわゆる単行本の絵本を出版する流通システムが確立されていなかった。児童図書出版といえば、『少年少女世界文学全集』といった数十冊がセットになった全集物を訪問販売員が各家庭を売り歩いたのが、一九五〇年代から八〇年代まで続いた韓国の出版文化だった。もちろん、日本でも昭和の

書籍販売に同様の方式がなかったわけではないが、韓国ではそれがすべてだったのである。

実は、こうした数十冊をセットにした販売形式は、一九九〇年代以降、現在も続く韓国の児童図書出版文化を支える主流の在り方である。訪問販売からネット通販へと販売方法は変化した。子ども用の本がセットで大量に購入されている様子は変りない。各家庭には子ども部屋があり、子ども部屋には立派な本棚があつて、そこには大きな箱詰めセットで買いそろえられた美しい絵本シリーズが並んでいる。二〇一九年に公開されたカンヌ国際映画祭やアカデミー賞など数々の国際的な賞を受賞した韓国映画『パラサイト』（ポン・ジュノ監督）でも、お金持ちの家の子ども部屋に背表紙のそろった色とりどりの絵本シリーズが並んでいるシーンを目にすることができる。

いづれにしても、単行本創作絵本が出版され、書店に並んだというのは画期的なことで、それによって作家の創作が尊重された作品性の高い児童出版美術という概念が生まれたのである。

一九八八年は、ソウルオリンピック開催の年であり、近代以降の過酷な歴史（植民地時代、朝鮮戦争、分断国家）を経て、韓国が政治的にも経済的にも文化的にも国際社会の表舞台に立つターニングポイントとなった年である。前年の一九八七年には民主化も宣言された。夜間通行禁止令が全面的に解除されたのも一九八八年であったから、民主主義と自由、そして平和があつてこそこの絵本出版というものをまさに身をもって示してい



図6 リュウ・チェスウ『山になった巨人 白頭山ものがたり』福音館書店、1990年

るのが韓国の絵本である。

その初の単行本創作絵本が、柳在守¹⁴⁾『白頭山物語』(ソウル・トンナム出版社、一九八八年四月)である。日本では、初めて翻訳紹介される現代韓国創作絵本として一九九〇年に出版された¹⁵⁾

(図6)。

白頭山は、中国東北部の吉林省と北朝鮮の境界にある山で、植民地時代には抗日パルチザンが活動していた。そのため、現在では、民族独立の聖地であり、分断された民族の統一に向けた祈りが向かう場所である。そのような朝鮮の精神文化の象徴である白頭山の物語が、現代韓国創作絵本の嚆矢であつたことは非常に意味深い。

本作品の物語は、周辺民族の侵略の歴史を善と悪の戦いとして描き、朝鮮の民が暮らす土地は神が眠る山々の気脈に抱き守られていることを描いた、あたかも建国神話のようなスケールがある。この絵本の最終章では、白頭山を仰ぎ黙想する農民たちの姿が次のように語られている。

朝鮮のひとつとは、はたらくときも、ねむるときも、いつも、白頭山のことをおもいました。

いつのまにか、ひとつとのむねのなかに、白頭山にこもっているいのちの気が、しつかりと、ねをはりはじめました。

朝鮮のひとつとは、この国にわざわざいぐるとき、あの白頭山が、ふたたびめざめることを、かたくしんじています。

(リュウ・チեսウ作・絵、イ・サンクム／まっただし共訳『山になった巨人 白頭山ものがたり』福音館書店)

悪の侵略に屈せず、善なる民の安寧な生活を民族精神の気力漲る白頭山に祈るのである。まさに「民族思想の源泉」が、この絵本によって賛美されている。

近代の方定煥は、前近代的な意識からの人権解放と、植民地支配からの民族解放を、「民族思想の源泉」としての童話(昔話)の復興を通して叫んだのだが、民主化した現代の出発点において出版された『白頭山物語』も、同じように「民族精神の源泉」たる神話の創造によって、民主主義と、国家の統一、民族の自立を叫んだのだといえる。

近代からの、この一貫した民族主義が脈々と生きていること。このことこそ、現在、世界的な高い評価を得るまでに成長した韓国の児童図書出版文化の底力だといえるのではないだろうか。

『白頭山物語』を刊行した出版社は、著名な哲学者キム・ヨンオク(金容沃)¹⁶⁾の哲学書専門の出版社である。当時の社会状況

では、このような美術書とも思想書ともいえる豪華な単行本絵本を児童書出版社から出版できる状況はなかった。児童書といえば、娯楽か教育の目的のために消費されるものだったし、作品性の高い著作物を出版できる社会的条件は整っておらず、著作権保護の国際的な条約であるベルヌ条約に韓国が加盟したのも一九九六年のことである。ようやく民主化宣言がなされたばかりの韓国で、児童書の著作権に対する認識などはまだまだ先の話だったといえる。

ともかく、「民族思想の源泉」の復興という志をもって、韓国の現代絵本は拓かれたといつてよい。『白頭山物語』を出版したキム・ヨンオクの出版社名はトンナムといい、丸太を意味する。その名が示すように、『白頭山物語』には、朝鮮の歴史的民族的集合無意識まで深く根を張って倒れない大木の風格が漲っている。

四 おわりに

近代朝鮮における子どもの文化と人権運動の開拓者であった方定煥は、民族宗教である天道教の重要人物であった。天道教は、朝鮮王朝末期に農民革命を起こした東学がその前身で、万人平等の民衆運動がその核心である。天国における魂の救済ではなく、地上天国を建設する社会改革思想を持っている。方定煥は、そうした思想を行動原理とし、昔話や童話の力をもって、抑圧された子どもたちの精神を解放させ、民族の独立を求めた。

また、民主化宣言後の現代韓国で『白頭山物語』を描き、現

代韓国絵本を拓いた柳在守は、絵本作家である以前に、共同育
児運動（託児所・保育所運動）や南北の子どもたちを主人公と
する平和・統一運動に力を注いできた草の根活動家である。
一九八七年に民主化宣言がなされるまでは、軍事独裁政権下の
韓国では、民主化抗争、労働争議が繰り返されていた。そのよ
うな社会背景から生まれた絵本作家である柳在守も、方定煥と
同じように抑圧された人権の解放と分断された国家の統一を目
指す活動家だったのである。

近代以降、韓国児童文学・児童文化の大きなターニングポイ
ントに存在した方定煥と柳在守は、ともに人権・民族・平等・
平和を求めた社会改革思想の持主であり、そのための原動力を、
童話（昔話と神話）に求めたところに共通点があったといえる。

*本稿は、日本学術振興会科学研究費（基盤研究（C））（課題番号：
19K00535）「近代朝鮮少年運動と韓国児童文学成立期の研究」によ
る研究成果の一部である。

注

- (1) ペク・ヒナ(曲詞ナ)、一九七二年ソウル生まれ。梨花女子大
学卒。カリフォルニア芸術大学でアニメーションを専攻。
二〇〇五年ボローニャ国際絵本原画展フィクション部門入選。
二〇二〇年アストリッド・リンドグリーン記念文学賞受賞。邦
訳出版されている作品に、二〇〇六年『ふわふわくもパン』（小
学館）、二〇一六年『天女銭湯』、二〇一七年『天女かあやん』、

- 二〇一八年『あめだま』、二〇一九年『ぼくは犬や』、二〇二〇
年『お月さんのシャベット』（すべてプロンズ新社）がある。
- (2) スージー・リー（イ・スジ/이수지）、一九七四年ソウル生まれ。
ソウル大学卒。ロンドン芸術大学キャンパーウエル・カレッジ・
オブ・アーツでブックアートの修士学位(MA in Book Arts)取
得。邦訳出版されている作品に、二〇〇九年『なみ』、二〇一〇
年『かげ』（ともに講談社）、二〇一八年『せん』（岩波書店）
- (3) 大竹聖美「方定煥研究」誕生から十歳まで・幼少期の生家と
時代背景・評伝『小波・方定煥の生涯——愛の贈り物』を読
む」東京純心女子大学『紀要』第18号、二〇一四年三月
- (4) 大竹聖美「韓国児童文学成立期の探究と一九二二年前後の方
定煥の足跡・伝記的考察と史跡踏査を中心に」東京純心大学
『紀要 現代文化学部』第25号、二〇二二年三月
- (5) 大竹聖美「方定煥と天道教——孫秉熙の三女との結婚まで」
評伝『小波・方定煥の生涯——愛の贈り物』を読む」東京
純心女子大学『紀要』第19号、二〇一五年三月
- (6) 大竹聖美「新文化運動と方定煥・李相琴」小波・方定煥の生
涯・愛の贈り物」に見る天道教青年会発足と「開闢」創刊」東
京純心大学『紀要 現代文化学部』第21号、二〇一七年三月
- (7) 大竹聖美「方定煥の東京留学・李相琴」小波・方定煥の生
涯・愛の贈り物」を読む」東京純心大学『紀要 現代文化学
部』第22号、二〇一八年二月
- (8) 大竹聖美「植民地朝鮮と児童文化」社会評論社、二〇〇八年、
pp.127～129

(9) 刊行は、京城(ソウル)・・・開闢社、一九二二年七月七日。

(10) 韓国児童文学史上記念碑的に語られる最初の童話集。一九二〇年代に10版以上の版を重ねたベストセラー。全文ハングルで書かれた世界名作童話の翻案集であった。童話の概念を朝鮮社会に移植した意味は大きい。

(11) 方定煥が底本としたのは、巖谷小波編『世界お伽噺第九十七編 伊太利の部 魔王ア、』博文館、一九〇七(明治四十)年九月初版と推測する。本書の冒頭にある解題には、「ラウラ・コンツェンバッハ女史の集めた、シ、リヤお伽噺集の中に、『ア、』と云ふ題であるのが、この話の原文です。シ、リヤと云えば地中海の一島で伊太利に属した所でありますから、これを伊太利の部に入れます。」とある。

(12) 大竹聖美『植民地朝鮮と児童文化』社会評論社、二〇〇八年、pp.129～130

(13) 大竹聖美「韓国近代児童文学創成期における愛・方定煥の児童文学における愛」東京純心大学キリスト教文化研究センター『カトリコス』二〇一七年一月

(14) 大竹聖美「近代朝鮮における〈童話〉の形成過程・方定煥が翻案したイソップ寓話「ソウルねずみと田舎ねずみ」と創作童話「田舎ねずみのソウル見物」の考察」東京純心大学『紀要 現代文化学部』二〇二〇年三月

(15) リユウ・チェスウ(柳在守/류재수)。一九五四年)。絵本作家。

(16) リユウ・チェスウ作・絵、イ・サンクム、まついただし共訳『山になった巨人 白頭山ものがたり』福音館書店、一九九〇年

(17) キム・ヨンオク(金容沃/김용욱)。一九四八年)。一九七四年に国立台湾大学で修士学位取得。一九七七年に東京大学で修士学位(中国哲学)取得、一九八二年にハーバード大学で博士学位取得。高麗大学哲学科教授の他、多くの大学で教授等を歴任。TV番組での一般市民に向けた白熱の講義で知られる。

(18) 二〇〇〇年代になって、児童書専門出版社(ポリム出版社)に版權が移されている。

(19) 日本は一八九九年加盟。

参考文献

韓国語文献

이상금 『소과 방정환의 생애—사랑의 선봉』 Seoul: 한림출판사, 二〇〇五年

이재철 『한국현대아동문학사』 Seoul: 민족사, 一九七八年

이재철 『아동잡지 〈어린이〉 연구』 『한국아동문학연구』 Seoul: 계몽사, 一九八三年

日本語文献

李姪炫「方定煥の児童文学における翻訳童話をめぐって—「オリニ」誌と「サンエンソムル(愛の贈り物)」を中心に」大阪大学大学院言語文化研究科修士論文、二〇〇四年

大竹聖美『植民地朝鮮と児童文化』社会評論社、二〇〇八年

リユウ・チェスウ作・絵、イ・サンクム/まついただし共訳『山になった巨人 白頭山ものがたり』福音館書店

(おおたけ・きよみ/東京純心大学)